

# 自治協ニュース

第0304

発行者  
八本松住民  
自治協議会

R03. 10. 20

## 地域パトロール 早めの対策で減災

各地区自主防災会

## 夜間の豪雨

## 求められる安全で積極的な避難行動

8月上旬、台風9号が広島県を通過して間もなく、西日本付近に発達した停滞前線が長期にわたってかかりつづけた。このため、八本松地域でも12日から3日間連続した降雨となり、累積雨量471mmと降雨日数、累積雨量とも平成30年の西日本豪雨（2日間、382mm）を越える記録的な長雨となった。

8月12日未明から降り始めた雨は、朝9時から10時にかけて時間雨量25mmを記録し、その後3日間断続的に集中豪雨を繰り返す過去に例を見ない長雨となった。それに合わせ、八本松防災本部（土友岡章治 本部長）は、地区の防災会と協調し八本松地域センターや宗吉第一集会所、

# 8月 記録的な長雨がけ崩れ・道路の冠水多発



曾場ヶ城山溪流からバイパス側道へ出水(瀧の谷馬頭神社) 治山ダム工事予定箇所 8月13日10時55分



曾場ヶ城山溪流(三反田川)の治山ダム土砂災害警戒区域NO8 14日6時00分 高さ10.7mの治山ダムにより道路への出水なし



八本松馬木線 しまなみ銀行跡地前土砂崩れ 土砂災害警戒区域NO26地点 8月15日7時02分

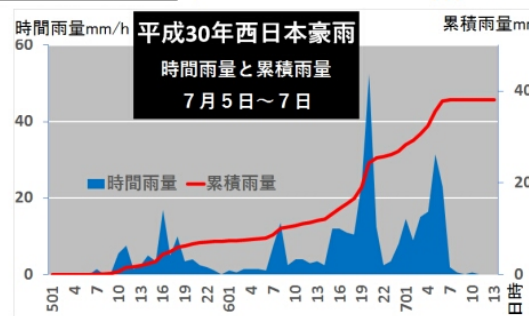
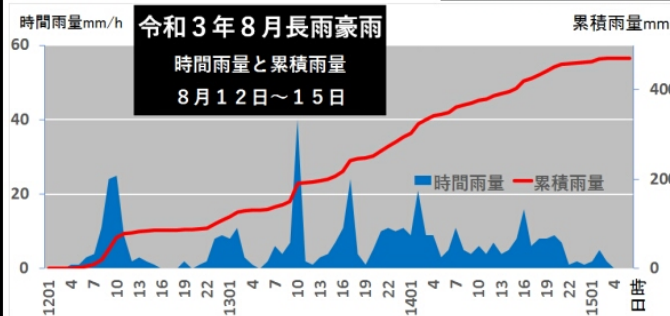
宗吉第二集会所、八本松集会所等の指定避難所を開設した。避難所への避難は、東広島市の「緊急告知ラジオ」や「防災情報等メール配信サービス」、更には地区の自主防災会のアナウンス等で「明るいうちに避難してください」と呼びかけられたが、雨のピークが夜間から早朝になったこともあり、避難者数は3日間で9名に留まり、自主的な避難対応の推進に今後の課題を残した。

種類	件数	場所
がけ崩れ	3	八本松馬木線 八本松北地区市道(2カ所)
土石流開口部から道路への出水	3	治山事業未実施溪流
開発地から道路へ出水	2	中央地区開発地 治山事業工事現場
河川護岸破壊	1	瀬野川 災害復旧現場
内水氾濫	3	八本松北側溝 中央地区の水路、側溝
計	12	

災害復旧については防災本部と連携し、関係機関・団体の協力を得ていち早く減災に努めたことは特筆される。

そのほとんどが八本松地区防災マップ（防災委員会作成）に掲載された警戒区域・危険区域でかつ治山事業や河川・水路等の防災事業がまだとられていない場所であった。今後こうした区域にあたっては、早急な防災事業の執行とともに、住

民の皆さんの安全で積極的な避難行動が求められている。



八本松小学校  
八本松自治協

# 児童が考えた防災の課題に答えて

## 質問 どんなどころが危険か！ どんなどんな防災対策を講じているか！ 地域とともに防災教育

課題3 どのように災害から復旧し防災対策を強化したか

●山の整備

令和2年度  
・治山ダム設置  
被害大の5渓流 最下流部

課題3 どのように災害から復旧し防災対策を強化したか

●池の整備

- ・土石流で埋まった池を元の姿に戻す(市)
- ・土石流が流れ込まないよう上流の山を整備(国)

大谷原池  
復旧事業概要  
・土砂の排出 1,184m<sup>3</sup>  
・流水の排出 24m<sup>3</sup>  
・木小フェンス 長さ 50m  
東広島市建設部資料

記念池  
復旧事業概要  
・土砂の排出 9,319m<sup>3</sup>  
・流水の排出 180m<sup>3</sup>  
東広島市建設部資料

上流の山の整備

記念池の整備

八本松小学校(校長 土肥美由紀)は、5年生(103人)の総合的な学習の時間で地域の方(八本松住民自治協)を招き八本松地域の防災について学んでいる。1回目の学習は6月22日に開かれ、「平成30年の西日本豪雨」について映像により八本松の災害状況を学び、この度2回目の学習が10月7日に開かれた。

今回は、1回目に学んだことをとおし、児童が疑問に感じたことについて詳しく知ることがテーマ。

児童から①どんなどころが危険か、②どんな被害が出たのか、③どのように復旧したのか、④過去の災害は、

⑤安全なところはどこか等防災の根幹にせまる質問が出された。

回答に当たった地域の方(自治協 土久岡会長、中本センタ-長、景山企画広報部長)は、最新の地域防災マップ(自治協作成)をベースに災害や復旧の映像

や図表を加え分りやすく回答した。

特に、「今回の西日本豪雨で山や池が土石流を食い止め私たちの命を守ってくれた一方、その山や池や水田が災害はもたらした地域の開発等で失われ災害が発生しやすい地域構造になってきている。そ

のため、行政に要望し、山の修復(曾場ヶ城山)や池の復旧(大谷原池、記念池)更には、水路の拡大(中央地区)や新たな調整池の造成(中央地区)を行い、災害に強い地域づくりに取り組んでいる」と説明。

また、「個人の防災の取組みは、自分が住んでいる所は安全かどうか防災マップ等を活用し調べることを推奨し、危険と判断すれば、家族や近所の方とも相談し災害時の行動を決めるとともに高齢者や障害者の方の避難を手助けする等お互いさまの運動を進めている」と説明した。

児童らは、学習時間が終了してもなお多くの質問を寄せ、防災への意識が大変高まってきていると感じた。

課題3 どのように災害から復旧し、防災対策を強化したか(6)

●川(水路)の整備

市の事業で(八本松駅前土地区画整理事業計画)

- ・街の地下に大型の水路
- ・レッドゾーンの除去・補強

中央地区防災マップ

新 1.8×1.8m  
旧 0.9×0.8m  
4.5倍

新 2.0×1.8m  
旧 1.2×1.1m  
2.7倍

新 3.5×1.5m  
旧 1.8×1.0m  
2.9倍

未調査

現在と新たな水路の断面積の比較(自治協調)

11

### 災害時安否確認訓練 定着し 今回13回目

八本松みなみ自主防災会

八本松みなみ地区自主防災会(横井國興会長)は、10月3日(日)早朝、24カ所の集合場所で一斉に災害時の安否確認訓練を実施した。

この訓練は、毎年春と秋の環境美化作業に合わせて行われるもので、今回は13回目。コロナ感染防止対策を講じたうえで実施された。

参加者は、手指を消毒し班毎の安否確認台帳にご家族の変動について記載した後、班長のリードで地震が発生した時の対応について全員で唱和した。

この日取材した八本松南地区1ブロック7



安否確認台帳に記入する住民の皆さん

班の班長の井伊浩志さんは、「いつも多くの方が参加される。これは、皆さんの日頃からの関係づくりのたまもの。きっと災害時に役立つものと思う」と感想を述べた。